

学校教育目標	中・長期的目標	総合評価					
○自主性を養う。 ・自らより高い価値を創造しようとする力をつける。  (願う生徒の姿)	・挨拶が行き交う学校に ・歌声が響く学校に  ・時を守る学校に ・読書に親しむ学校に  ・学習に集中する学校に ・清掃に打ち込む学校に	学校全体として落ち着いた学習に取り組める環境にある。身近ないじめ・不登校・生徒間のトラブル等解決すべき課題は起きているが、その都度早めに対処して解決を図ることができた。中・長期的目標として掲げている「挨拶を守る」「時を守る」については課題があり、今後、学校をあげて改善に取り組んでいきたい。また、新学習指導要領が33年度完全実施を迎えるので、学習指導の改善にはより一層力を入れていきたい。					
自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる生徒	平成30年度 学校重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	①授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰もが授業に主体的になるように授業改善に取り組む。	①特別支援教育の研修会を設定してきた。学んだことを整理し、誰もが実践していける三中スタイルを明確にしていくことが課題。		○			①外部指導者の協力を得て、授業のベースとすべき内容を具体化する。
	②生徒や教師が協力し、道徳を充実し、三中をいじめや差別を許さない学校にしていく。	②いじめや差別に関する生徒の評価が低かったが、評価の仕方を変えることで、いじめや差別をなくそうとする心が生徒に育っていることが明らかになった。			○		②生徒会新役員のよりよい校風を願う気持ちは強い。生徒が自治活動に取り組みやすい環境を整えていく。
	③キャリア教育を推進し、三中に地域や人々から多くを学ぶ学習を取り込む。	③学校支援コーディネーターの協力を得て、外部講師の協力を得た活動を設けることができた。	○				③各学年からリクエストを積極的に吸い上げ、具体の活動の場を設定していく。三中サポーターズへの登録を保護者等に促す。市「上田学」との連携を図る。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学校教育	学習指導	学習課題の明確化	「学習問題」「学習課題」を明記し、本時の学習課題が明確になっているか。	職員の肯定的評価は88%であり、昨年2学期の71%と比較して向上している。生徒が自ら追究したいと願うものになっているかは、今後も実態から検討し続ける必要がある。		○			生徒が何を学ぼうとするかであり、単元構想や授業改善そのものを大事にしていく。課題が板書されていればよしとしない。
		言語活動の充実	授業の中で話し合う場面(情報交換)を取り入れた授業を行っているか。	職員の肯定的評価は84%で、72%だった昨年度より向上。「主体的、対話的で深い学び」になるように学びの質をさらに高めていきたい。			○		新学習指導要領に沿って、今求められている力を生徒につけていけるような授業改善を図る。(授業改善部・各教科会の取組)
		分かる、できる授業づくり	授業で視覚化、具体化、肯定化を心がけ、教師が各自の課題を持って授業改善に取り組むことができたか。	教科によって差があるが、視覚教材や具体物を使った授業を増やすように努力している。家庭ではタブレット学習が一般化している時代であり、常に授業改善を続けていく必要がある。			○		授業のUD化を図る取組とも連動し、各学級の生徒の実態に沿った教材化に努める。同教科内での差ができるだけないように、全体のUD化の底上げを図る。
		個に応じた学習支援	「JIGAKU」や3年英語コース別学習を通して、個に応じた補充や発展の指導で個々への支援ができたか。	JIGAKUは昨年度の生徒からの反省を生かし、2教科を5教科にした。生徒のニーズに応じた学びの場とすることができた。通常授業では、生徒の学力差が大きく個に寄り添いきれない状況もある。	○				JIGAKUは生徒アンケートのまとめをもとに新年度の方向を決める。通常授業時の個別支援については、校内外の支援体制の充実を検討する。
		家庭学習の定着	「授業と家庭学習のつながり」に視点をおいた課題を与え、継続的に指導できたか。	授業と家庭学習、さらには定期テストと連動するように各教科で工夫している。しっかり取り組める生徒が多い中、家庭生活の乱れ等から定着しない生徒も少なくない。			○		生活・学習ノート「紡ぐ」に計画を記入する時間を確保する。家庭学習を見守ることができるのは保護者であるため、保護者との連携を強化する。(例 確認サイン)
	生活・生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の基本的生活習慣や健康を培う指導ができたか。	大半の生徒は生徒会活動や、保健安全への取組に協力的で、よりよい生活を心がけて過ごしている。その一方、毎日5～10分遅刻する生徒や、昼頃登校するのがあたりまえな生徒もおり、差が大きい。			○		生活習慣の大切さは、東海大学健康教育、保健委員会の点検活動等を継続することで意識を高めていく。遅刻が多い生徒とは(保護者も交えて)対策を相談する。
		認め合い支え合える集団づくり	道徳や人権学習を通して互いに認め合い、支え合える人間関係を育てる指導に取り組めたか。	85%の生徒がいじめ・差別を許さない心で生活していることが分かった。しかし、実際には教室内でいじめが起きることがあるし、それに対する望ましい行動が起きないことも多い。			○		人権学習を計画的に進めると共に、身近な差別事案に対して、生徒自身が解決していく力をつけることを意識して指導していく。
		不登校傾向生への支援・相談室の支援	一人一人の生徒の実態を把握し、チーム支援を進めることができたか。	毎朝、登校していない生徒の家庭に安全確認の電話を入れていくが、つながらないことも多い。家庭訪問をしても会えないなど、家庭と学校が連携しての不登校支援になりにくいケースが増えている。			○		SSWや福祉、教育相談所、児童相談所等と連携していく。小学校の時の実態よりも状況が悪くならないように、特に入学時の移行支援を重視する。
		安全で安心できる学校	生徒が安全で安心して生活できる学校づくりに取り組んでいるか。	生徒の肯定的評価は76%、保護者は84%で昨年度とほぼ同じ。100%に近づけたいが、安全・安心ではない部分がよく見えていない。警察官襲撃事件等の影響もあるか。			○		舎外から出入りできる場所への防犯カメラの設置をPTAの理解を得ながら進める。不安に思うことは生徒評価記述欄に記入するよう促す。
		相談活動の充実	生徒にとって相談しやすい環境を整えられたか。	生徒の肯定的評価が昨年度の64%から72%へ少し上がった。年間3回の教育相談に加え、学習生活ノート「紡ぐ」の活用により相談体制を整えてきた成果か。			○		相談の機会を確保すると共に、相談にきた生徒の困り感を理解し、共感的な対応をすることに心がける。
学校運営	保護者・地域との連携	生徒会活動・学年活動の充実	生徒が前面に出た活動につながるような支援ができたか。	職員は高い意識をもって生徒を育てようとしている。生徒は1年生が小学校との違いから肯定的評価89%と高いものの、上級生はあたりまえと感じている様子。全校平均82%。	○				やる気に満ちた次年度生徒会役員をいかにサポートしていけるか。努力に対して成果が見えるように支え、結果を認めていく。
		気持ちのよい挨拶	教師が率先して挨拶し、生徒が気持ちのよい挨拶を交わしあうことができるよう取り組むことができたか。	職員は肯定的評価が89%。姿で範を示そうとしている。生徒は自身に対して肯定的評価が84%だが、保護者の生徒に対する評価は67%と、昨年度よりもさらに下がってしまった。			○		校内でも関わりの少ない教員に対しては挨拶ができない様子が見える。挨拶しても返事ができない生徒も多い。挨拶はするものだという点を再度教える。
		清掃への取り組み	身支度を整え、無言清掃に取り組む指導ができたか。	生徒評価90%、保護者評価89%と、肯定的評価が高くなっている。職員はやや低めの79%。忙しさから生徒への清掃指導を十分に行うことができていないという思いが感じられる。	○				現状である程度望ましい姿にあるので、今後は清掃の質を高めると共に、まずはむやみに汚さないようにするという点も指導していく。
	保護者・地域との連携	学校開放日・体験入学等の実施	年4回の学校開放日や体験授業(新入生)等を通して、本校への理解や関心を高めてもらうことができたか。	保護者評価では肯定的評価が83%と昨年度と同じ数値。小6生の体験授業は、警察官襲撃事件の影響で1回目が中止となった。その分2回目に期待する児童が多かったと小学校からは聞いている。			○		授業を参観したい、校内を見学したいと思えるような仕掛けを検討する。掲示物一つとっても見えていただく価値がある。体験授業は年2回実施する。
		情報の発信	学校だよりや学年学級だより、絆メール等を通して情報提供し本校の取り組みに関心を高めてもらうことができたか。	学級担任にとっては学級通信を発行しているかどうかで評価が変わる項目。個人差が大きい。保護者評価は83%が肯定的であり、全体としては情報発信によって学校に関心をもっていただけている。	○				学校・学級と家庭との距離を縮めるツールとして積極的に発信していく。メールは無料システムを利用する方向で検討中。これまでより使いやすくなる見込み。
	地域との連携推進	地域と連携し、学習活動を工夫することができたか。	キャリア教育、JIGAKU、花作り、裁縫支援、茶道・華道体験学習等に関わりが深い職員は評価が高い。自ら求めて連携した各学年・各教科での活動がまだまだ少ないと言える。			○		力強く学校を支えてくださる学校支援コーディネーターや公民館の皆様がいる。学校側からの支援のリクエストが増えるかどうかを鍵。	